

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	小林 えり佳 (こばやし えりか)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2022 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 48 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	小林えり佳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	インターネットゲーム障害傾向におけるタイムマネジメントスキルと行動の機能に関する心理社会的要因の記述的検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【目的】</b> 本研究では、タイムマネジメントスキルと行動の機能の差異がインターネットゲーム障害 (internet gaming disorder : 以下, IGD) 傾向に及ぼす影響について、ソーシャルサポートの特徴と発達段階を含めて検討することを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b> <b>研究協力者</b> インターネットゲームを行う大学生 149 名, 高校生 77 名。 <b>測度</b> デモグラフィック項目 (年齢, 性別, ゲーム時間, 自由時間など), IGD 傾向 (IGDS-J ; 鷺見他, 2018), タイムマネジメントスキル (時間管理尺度 ; 井邑他, 2016), 不安傾向 (LSAS-J ; 朝倉他, 2002, SIAS 日本語版 ; 金井, 2004), 衝動性 (自記式 ADHD チェック項目 ; 篠田他, 2015, 金銭的 5 試行遅延割引タスク ; Koffarnus &amp; Bickel, 2014), ソーシャルサポート (ソーシャル・サポート尺度日本語版 ; 岩佐他, 2007) <b>倫理的配慮</b> 本研究は早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (承認番号 : 2021-260)。</p> <p><b>【結果・考察】</b> 各変数間の関連を検討するために Pearson の相関係数を算出した結果, 高校生と大学生ともに, タイムマネジメントスキルが高いほど IGD の程度が低いことが示唆された。また, 家族のソーシャルサポートが多い高校生ほど IGD の程度が低いことが示された。各変数が IGD 傾向に及ぼす影響を検討するために階層的重回帰分析を行った結果, 不安傾向や衝動性が高い大学生は, タイムマネジメントスキルの程度にかかわらず, IGD 傾向が高いことが示された。したがって, 高校生においては, タイムマネジメントスキルの獲得と家族のソーシャルサポートの向上の有効性が示唆された。また, 不安傾向や衝動性が低い大学生においては, タイムマネジメントスキルの獲得, 不安傾向や衝動性が高い大学生においては, 不安傾向の高さに起因する回避や衝動性の高さに起因する報酬への接近に対するアプローチの有効性が期待される。</p>	

※無断転載禁止